

KOTOCLO全6回講習会（子育てサポーター養成講座）のお知らせ

【スピーカー】



写真は左から

水野克己先生（昭和大学江東豊洲病院小児内科教授、KOTOCLO代表：第1～5回）

伴照代先生（ブライトン代表取締役、バースコンシェルジュ、KOTOCLO理事：第1～5回）

長谷部真奈見先生（NPO法人アクセプションズ代表、フリーアナウンサー：第6回）

趙福順先生（目黒駅前メンタルヘルスクリニック院長：第6回）

宮田理恵先生（社会福祉法人げんき 臨床心理士：第6回）

【場所】昭和大学江東豊洲病院9階講堂：江東区豊洲5-1-38有楽町線豊洲駅6b出口より徒歩6分

【概要】NPO法人江東豊洲子育て&母乳育児を支援する会（KOTOCLO）はお母さんが安心して子育てできるようなサポート体制の構築を目的としています。

現状では、お母さんが出産される施設やかかわる医療者により、母乳育児支援の在り方は大きく異なっています。結果として、お母さま方の育児不安につながっているという声も聞きます。以下のNHK番組でもこの問題が取り上げられました。

2016年6月11日（土）11:30～「目撃！日本列島」※全国放送

2016年6月17日（金）19:30～「四国羅針盤」※四国管内での放送

母乳育児を医療の一分野として考えるなら、日本全国どこでも標準的な支援が受けられることが望まれます。そこで、私たちは標準的な子育て・母乳育児支援に必要な知識を習得し、母親にあった"引き出し"を提供できるよう全6回の講習会を企画いたしました。

これらを受講すると目の前のお母様方が安心してわが子と向き合えるだけでなく、皆様ご自身も自信をもって対応できるようにもなることでしょう。第1～5回は、実際にワークも取り入れた実践形式の講習会です（ワーク担当：伴照代先生）。参加証は、ご受講後にお渡しします。

受講にはKOTOCLOに会員であることが必要になります（当日会員申込できます。年会費2000円）。

今後、KOTOCLOは子育て中のお母さま方を支援するコールセンター・子育て相談室を立ち上げ、ママカフェ、ワーキングスペース、託児施設を包括した施設を作っていきます。妊娠出産を経て医療の現場から遠のいている助産師・看護師・保健師・小児科医師の雇用にもつながることでしょう。講習会で学習する座学に自らの子育て経験を生かして、お母さま方の強い味方になっていただきたいと思います。

【講習会参加費】1回3000円、年会費（1回お支払いいただければ1年間有効です）2000円

【お申込み方法】kotocloabc@yahoo.co.jpまで お名前（漢字とフリガナ）、職種、メールアドレスをお書き添えのうえ、メールにてお申し込みください。

なお、講義は毎回、14時から17時 です

*****内容*****

7月31日 第1回：妊娠～出産前から始まる子育て・母乳育児支援

妊娠～出産前から知っておいてほしいこと。子育て・母乳育児が大変にならないようにするにはこのころからの健康管理が重要になります。出産後に母乳育児で困ったことがあってはじめてあたふたするのではなく、妊娠中から適切な情報提供を得ること、支援者との信頼関係を構築することこそが安心した子育てにつながることでしょう

1. 母乳の作られる仕組み
2. 妊娠前からの健康管理の重要性：高齢妊娠・腸内細菌
3. 妊娠中の日々の生活：食事のこと、運動のこと、日に当たること

8月21日 第2回：母乳育児に関する不安と対処（産科施設入院中）

これから出産を迎える女性に寄り添っていく場合、母乳で育てる際に母親が不安になることが多い項目についてはあらかじめ情報提供をするなど出産前に対応したいものです。

大都市は別として、一般的には自宅に近い分娩施設でお産をします。つまり、母乳育児の希望の有無により分娩施設を選択することはできません。

分娩施設や医療者により母乳育児に関する取り組みや知識には差がおおきいものです。お母さまのサポーターとなる方には標準的な知識を持っていただき不安を抱えるお母さま方の強い味方になっていただきたいと思います。それこそが母乳で育てることを希望するお母さまの安心につながります。

1. お産のあとすぐに授乳をはじめることの重要性とリスク回避
2. 母親と児がいつも一緒にいることが持つ意味
3. リスクのある母親と児を見極めて対処できるようになる：生後早期の体重減少・黄疸・低血糖

9月11日 第3回：母乳育児に関する不安事項（退院後）

分娩施設を退院するまでにできるようになっておいてほしいこと、しっておいてほしいことをわかりやすくお伝えできるようになりましょう。乳頭痛・乳頭損傷は母乳育児をやめる大きな要因のひとつです。最も重要なのは、このような状態にならないことつまり、予防です。

退院後すぐに不安になり電話で相談がくるかもしれない重要項目です

1. 乳頭が痛いと訴える
2. 足りない不安になったとき
3. おっぱいをあげるタイミング

10月2日 第4回：薬と感染症の知識

授乳中であってもかぜをひいたり、花粉症でつらくなったりします。もちろん妊娠前からなんらかの病気を抱えていらっしゃるお母さんも少なくありません。そのような状況でも母乳で我が子を育てたい、その思いにしっかりと答えられるよう必要な知識を習得します

電話で相談がくるかもしれない重要項目です

1. 妊娠中から持病があり薬を使っている場合：この場合は妊娠中に相談される

2. 授乳中の急性疾患における対処できる
3. 妊娠中～授乳中の感染症：母子感染についても情報提供できる

10月30日 第5回：一般的な子育て相談への対応

1か月健診・2か月健診、そして3-4か月健診でお母さま方が悩まれている項目をあげて、その対応を解説します。赤ちゃんの病気がないのかどうか、すぐに小児科を受診したほうがよいのかも電話対応である程度は見極められるコツをお伝えします

虐待で死亡する子どもの数は年間350人に及ぶという報告も小児科学会から出されています。一本の電話で一人の命が救えるなら・・・母親の育児不安を軽減して虐待への最初のステップを閉鎖できるようになりましょう

電話で相談がくるかもしれない重要項目です

11月20日 第6回：対応した際にうつ状態が疑われたときの対応・障害のあるお子さんに関する理解を深めて母親の心配を受け止められる

このお母さん、かなり追い詰められている・・・と感じられることはないでしょうか？そのようなときまずどのように対応すべきなのか、基本的なことは私たちも理解しておかなければなりません。そのあたりを臨床心理士の先生にご解説いただきます。また、目黒駅前メンタルヘルスクリニック院長の趙先生に産後うつ病についてお話ししていただきます。

障害のあるお子さんに関する理解を深めることは、母親の心配を受け止めるためにも必要なことです。特別講師として長谷部真奈見先生（TBS や福井放送などでアナウンサー・キャスターとして活躍され、現在もテレビ出演に加えて、障害のあるお子さんたちを支援するNPO法人にも携わっていらっしゃいます）をお招きいたします。

これらは相談事業における非常に重要な項目です。